

平成15年12月期 第3四半期業績の概況(連結・個別)

平成15年11月10日

上場会社名 株式会社アサツー ディ・ケイ

(コード番号：9747 東証第一部)

(URL <http://www.adk.jp>)

代表者 役職名 取締役社長 長 沼 孝一郎

問合せ先責任者 役職名 特別顧問 鎌 徳 弥 TEL：(03)3547-2028

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度(最近事業年度)における認識の方法との相違の有無： 無

2. 平成15年12月期第3四半期までの連結業績の概況(平成15年1月1日～平成15年9月30日)

(1)業績の状況

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	売上高	売上総利益	営業利益
平成15年12月期 3四半期(9ヵ月累計)	287,283	33,854	4,208
(参考)平成15年12月期 第3四半期(7月～9月)	91,320	10,755	1,226
(参考)平成14年12月期 (通期)	373,899	41,529	3,798

(注)当社グループでは当期第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、平成14年12月期第3四半期の業績及び対前年四半期増減率につきましては、記載を省略しております。

[連結業績に関する補足説明]

当第3四半期までのわが国経済は、株価の回復を契機に景況感の改善がみられましたが、急激な円高や引き続き構造問題のため景気の先行きはまだまだ安定せず、企業の広告出稿は積極派と緊縮派が混在するまま全体として厳しい状況で推移しました。

(広告業セグメント)

このような環境下、当社グループは広告業界の挑戦者として自らを再確認し、外資系や大型広告予算をもつ広告主の開拓に危機感を持って注力した結果、「金融・保険」「食品」「化粧品」などの業種の売上げが伸張し、9ヵ月間の同セグメントの外部顧客に対する売上高は2,797億2千9百万円となりました。原価管理による売上総利益の改善と人件費率の抑制等が奏功し、営業利益は37億5千3百万円(セグメント間消去前)となりました。

(その他の事業セグメント)

個人消費の低迷のなか、書籍出版・販売部門におきましては、安定的に推移し、9ヵ月間の同セグメントの外部顧客に対する売上高は75億5千4百万円、営業利益は4億4千万円(セグメント間消去前)となりました。

以上の結果、9ヵ月間の連結売上高は2,872億8千3百万円、売上総利益は338億5千4百万円、営業利益は42億8百万円となりました。

(2)当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

特に記載すべき事項はありません。

(3)平成15年12月期の連結業績予想(平成15年1月1日～平成15年12月31日)

今後の企業の経営環境には一定の明るさがみえるものの、広告環境には未だ不安定なものがありますので、通期の業績予想は平成15年8月15日発表の修正予想より変更ない見通しであります。

3. 平成15年12月期第3四半期までの個別業績の概況(平成15年1月1日～平成15年9月30日)

(1)業績の状況

(単位：百万円、百万円未満切捨)

	売上高	売上総利益	営業利益
平成15年12月期 3四半期(9ヵ月累計)	259,682	27,292	3,677
(参考)平成15年12月期 第3四半期(7月～9月)	82,303	8,702	1,138
(参考)平成14年12月期 (通期)	334,915	32,005	2,419

(注)当社では当期第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、平成14年12月期第3四半期の業績及び対前年四半期増減率につきましては、記載を省略しております。

(2)平成15年12月期の個別業績予想(平成15年1月1日～平成15年12月31日)

今後の企業の経営環境には一定の明るさがみえるものの、広告環境には未だ不安定なものがありますので、通期の業績予想は平成15年8月15日発表の修正予想より変更ない見通しであります。

以上